

高志の国  
文学館  
KOSHINOKUNI  
Museum of Literature

# 高志の国文学館 年報

令和6年度

---

# 高志の国文学館 年報

---

令和6年度

---

## 目 次

---

### I 令和6年度のあゆみ

令和6年度のあゆみ	4
-----------	---

### II 事業内容

1 展示活動	6
2 資料概況	20
3 教育・普及事業	21
4 高志の国文学館友の会	30

### III 管理・運営

1 利用状況	32
2 施設の概要	34
3 機構	35
4 組織	36

### IV 資料

沿革	38
----	----

### V 関係法令

関係法令	42
------	----

---

# I 令和6年度のあゆみ

---

## 令和6年度 高志の国文学館のあゆみ

年 月 日	事 項
令和6年4月7日	観桜の集い
4月21日	総入館者数120万人達成セレモニー
4月28日	文学講座（大学連携シリーズ）（7月6日まで 全4回）
5月6日	室井滋の文学サロンきときとの仲間たち（8月11日まで 計2回）
5月26日	高志プロジェクト令和5年度認定者による研究発表
6月15日	<b>企画展「しあわせにな〜れ！ 長谷川義史のえほん展」（9月2日まで）</b>
6月28日	クローズアップコーナー 「ヘルン文庫開設100年 没後120年 小泉八雲特集」（8月26日まで） 特別コレクション室 「富山と映画 県出身の若き才能たち」（令和7年6月23日まで）
7月26日	夏のこどもフェスティバルー文学館でいっしょに遊ぼう & 学ぼう（8月26日まで）
7月28日	室井滋の夜囁ミュージックスペシャル
8月10日	室井滋の“きとっぴ”のまな防災！
8月28日	クローズアップコーナー 「没後50年 おわら風の盆の画家 林秋路特集」（令和7年6月23日まで）
9月7日	文学講座（富山を知る・学ぶ）（12月15日まで 全4回）
9月14日	<b>企画展「生誕90年 井上ひさし展」（11月24日まで）</b>
9月21日	観月の集い
9月28日	絵てがみ教室（9月29日まで）
11月22日	朗読と音楽の夕べ（3月15日まで 計3回）
12月7日	<b>企画展「没後20年 詩と出会う旅 南桂子の世界展」（令和7年2月11日まで）</b>
令和7年2月15日	ミュージアムコンサート
2月22日	<b>「第1回 しあわせを伝えよう！ 絵てがみ展」（3月17日まで）</b>
3月29日	<b>企画展「池波正太郎展一人間通のまなざし」（6月9日まで）</b>

---

## II 事業内容

---

# 1. 展示活動

## □常設展示

### 概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介しています。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介しています。平成29年4月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設されました。

### <ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者25人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介しました。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

### <ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介すると



クローズアップコーナー

ともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示しました。

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介しました。

### <ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介しました。

### <ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介しています。



「ゆかりの漫画家」コーナー



特別コレクション室

## □ 展示構成

令和7年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要		
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索		
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介		
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ	
		源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝 辺見じゅん 久世光彦	筏井竹の門 岩倉政治 遠藤和子 大井冷光 翁 久充 角川源義 小寺菊子 佐伯彰一 高島 高	瀧口修造 田中冬二 田部重治 暇 文兵 新田次郎 前田普羅 三島霜川 横山源之助 渡辺順三
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡		
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示		
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置		
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介		
	「令和」記念コーナー	新元号「令和」を記念して設置		
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介		
	クローズアップコーナー	「新資料紹介 生誕90年 柏原兵三—恩師との書簡と同人雑誌「運河」」 「ヘルン文庫開設100年 没後120年 小泉八雲特集」 「没後50年 おわら風の盆の画家 林秋路特集」		
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介		
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄 <sup>㉔</sup> 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ		
		特別コレクション室	「富山と映画 県出身の若き才能たち」	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎		
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 佐伯宗義 松村謙三 馬場はる		

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。令和5年度は4回の展示替えを行った。

## □クローズアップコーナー

### 「ヘルン文庫開設 100 年 没後 120 年 小泉八雲特集」

会 期／令和 6 年 6 月 28 日 函～ 8 月 26 日 函

担 当／林和宏（富山大学附属図書館）、

綿引香織（高志の国文学館）

出品点数／42 点

#### 趣旨・総括

『怪談』などの著作で知られる小泉八雲（ラフカディオ・ハーン 1850～1904）は、数多くの著作を通して明治の日本を欧米に紹介しました。ハーンの蔵書は、現在、富山大学附属図書館でヘルン文庫として保管されており、2024 年は、小泉八雲没後 120 年、ヘルン文庫の開設 100 年にあたります。

ハーンは、ギリシャで生まれ、アイルランドで育ち、青年期に移民としてアメリカへ渡り、40 歳で来日し、54 歳で生涯を閉じるまで日本で過ごし、『知られざる日本の面影』や『怪談』等、今も世界中で読まれる作品を執筆しました。ヘルン文庫は、ハーンが生前、所蔵していた蔵書をまとめて保存している貴重な文庫です。蔵書は、欧米の文学作品、神話・民間伝承、歴史・哲学・宗教、東洋関係、自然科学から和漢書まで多岐にわたり、書込みも多く残されています。ハーンの頭の中そのものともいえるこの蔵書を閲覧するため、今も国内外から研究者が訪れています。

本展では、ハーンの蔵書とその研究成果の一端をご覧いただくとともに、旧制富山高等学校（富山大学の前身校）の設立ともかかわる、ヘルン文庫が富山の地

にやって来た運命的な物語についても、写真やゆかりの品を交えてお伝えしました。

#### 主な展示資料

- ・ヘルン文庫設立の経緯に関わる資料（富山高等学校設立のための寄附願、写真「神田の北星堂前に積まれたハーンの蔵書」、南日恒太郎「ラフカディオ・ハーンの図書目録原稿」）
- ・ハーンの蔵書（B.H. チェンバレン訳『古事記（Ko-Ji-Ki）』、ジャパン・ガゼット社「日本での大災害 1896 年 6 月 15 日」リーフレット、一夕散人『臥遊奇談』、シャルル・ベサック『モーリシャスの民話』）、愛用品（名刺、キセル）
- ・ハーンの著作（1874 年 1 月 23 日付『シンシナティ・インクワイアラー』朝刊掲載記事、『知られざる日本の面影』、「日本一つの解明（神国日本）」手書き原稿）



### 「没後 50 年 おわら風の盆の画家 林秋路特集」

会 期／令和 6 年 8 月 28 日 函～

令和 7 年 6 月 23 日 函

※ 1 月 20 日 函まで前期、1 月 22 日 函から後期

担 当／綿引香織

出品点数／60 点

#### 趣旨・総括

富山県八尾町で毎年 9 月 1 日から 3 日にかけて開催される「おわら風の盆」は、全国から多くの観光客が訪れる人気の行事です。そのおわらを描いた印象的な書画や版画を世に残したのが、同町出身の林秋路（1903～1974）です。

秋路は、昭和 4 年（1929）に川崎順二を中心に発足

した「越中八尾民謡おわら保存会」の主要メンバーの一人として、絵葉書やポスター、踊り方の図解などを描いて「おわら風の盆」の宣伝や普及に貢献したほか、おわら節の歌詞の制作も行うなど、生涯を通じておわらと深い関わりを持ちました。このほか、八尾の風物を描いた版画や手漉き和紙、印刻、商品デザインなど多彩な作品も手がけており、歌人の吉井勇をはじめとする文化人と交流があったことでも知られています。

没後 50 年にあたって開催した本展では、昭和初期のおわら絵葉書、冊子「おわらの姿」、表彰状などの、秋路とおわらとの関わりを伝える資料、川崎順二書・林秋路面の掛軸、「越中八尾おわら踊 井田川べり」や色紙などのおわらを描いた直筆書画、「おわ

らの子供」「おわらの四季」「風の盆おわら踊」などの版画および版木、絵葉書「越中五ヶ山 むぎや踊」、版画「雪国の街」、絵葉書「越中八尾の曳山車」、手漉き和紙便箋などのおわら以外の作品、吉井勇の歌集『流離抄』および林秋路宛書簡、秋路の直筆画「紙漉の図」など、歌人吉井勇との交流を示す資料などを展示。初期から晩年に至る秋路の作風の変遷と、独創的で情感あふれる秋路の作品世界の魅力を再認識する機会となりました。



## □特別コレクション室

### 「富山と映画 県出身の若き才能たち」

会 期／令和6年6月28日(金)～

令和7年6月23日(日)

担 当／福澤美幸、佐藤あゆ美、大川原竜一

出品点数／42点（パネルを含む）

#### 趣旨・総括

近年、映画業界は若手が注目される時代へと移り変わりつつあります。かつてはあまり例を見なかった10代や20代での活躍が目立つようになり、「映画離れ」が進んでいると言われる昨今においても、ショートフィルムやインディーズ映画に注目が集まっています。また、国内外の映画祭において評価される作品が若手の映画監督によってつぎつぎと生み出されています。

本展では、これから富山の映画界を盛り上げていくであろう、注目すべき富山県出身の若き才能、4人をご紹介します。

坂本欣弘監督（1986年生まれ） 富山で撮影されたデビュー作「真白の恋」や続作「もみの家」では、主人公の心の機微や成長が繊細に描かれ、多くの観客に感動を与えました。

今村圭佑監督（1988年生まれ） 話題の映画やドラマの撮影で高い評価を得ている気鋭のカメラマン。2020年には「燕 Yan」で初めて映画監督を務め、その才能を発揮しました。

平井敦士監督（1989年生まれ） パリを拠点に活動し、国際的な評価を受ける監督。短編映画「ゆ／OYU」はカンヌ国際映画祭の監督週間に正式招待され、上映されました。

伊林侑香監督（1999年生まれ） 坂本欣弘監督が代表を務めるフォトスタジオ兼映像制作会社に入社。オール富山ロケで制作された映画「幻の螢」で映画監督デ

ビューを果たし、2024年には映画「祝日」を全国公開しました。

#### 主な展示資料

- ・映画「真白の恋」ポスター（サイン入り）
- ・映画「もみの家」小道具・表札「太見」
- ・映画「余命10年」撮影台本
- ・映画「燕 Yan」ポスター
- ・映画「ゆ／OYU」絵コンテ
- ・映画「ゆ／OYU」第52回モントリオール・ニュー・シネマ国際映画祭2023炉トロフィー
- ・映画「幻の螢」総合スケジュール表
- ・映画「祝日」台本（決定稿）



「坂本欣弘監督」「今村圭佑監督」コーナー



「平井敦士監督」「伊林侑香監督」コーナー

## (1)企画展「しあわせにな〜れ！ 長谷川義史のえほん展」

会 期／令和6年6月15日(土)～9月2日(日)

主 催／高志の国文学館

共 催／北日本新聞社、北日本放送

特別協力／空色画房

協 力／射水市大島絵本館、アリス館、絵本館、北日本新聞開発センター、教育画劇、金の星社、講談社、出版文化産業振興財団(JPIC)、小学館、BL出版、ブロンズ新社、理論社

観覧者数／3,640人

出品点数／163点 (パネル・バナーを含む)

印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判



チラシ 表



チラシ 裏

### 趣旨・総括

2000年に絵本デビュー以降、これまでに150冊以上の絵本を手がけ、子どもから大人まで幅広い層に愛される絵本作家・長谷川義史（大阪府藤井寺市生まれ、一九六一年～）。

本展では、長谷川義史の初期作品から、2024年6月に出版された『タケシのせかい』までの代表作を一堂に展示しました。みんなが笑顔になり、平和を願うメッセージが込められた長谷川義史の絵本の世界を、原画を通じて楽しんでいただける企画として、子どもたちへの夏休みの贈り物と位置づけました。多くの家族連れの方々にご来場いただき、にぎわいのある展示となりました。

エントランスには『絵本作家のブルース』の大型パネルや長谷川のライブアート作品を展示公開しました。また、長谷川がスケッチをしに天王寺へ出かけた本展オリジナル動画も上映するとともに当館館長の室井滋による朗読映像の上映コーナーや絵本コーナーを

設置。くわえてキャラクタースタンディや顔はめパネル、仮装して「しげちゃん一座」と並んで写真撮影ができるフォトスポットも用意し、園児たちが「ぼくたちわたしたちのしあわせにな〜れ！」をテーマに描いた絵も出展しました。

企画展示室内では、室井滋との共作を含む代表作な絵本13作品の原画を展覧しました。また、絵本が完成するまでの過程を伝えるラフスケッチや東見本などを出展し、制作の裏側を紹介しました。さらに、アトリエ（作業場）を紹介するコーナーでは、長谷川がアトリエで絵を描く様子を収めた動画を上映しました。

会期中には、会場入り口に設置した当館のスタンプをチラシに押しingていただくと、『しげちゃん』と『タケシのせかい』のイラストをプリントした企画展オリジナル缶バッジを、入場者特典としてプレゼントする企画を実施しました。

関連イベントとしては、開会前日に長谷川が観客の前で即興で絵を描くライブアートを開催。また、長谷川と室井滋による開会記念トーク&サイン会を実施しました。長谷川によるトークイベントは、本展に協力した射水市大島絵本館でもおこなわれました。さらに、無くした帽子を探すクマを描いた絵本『どこいったん』（作：ジョン・クラッセン、訳：長谷川義史）をテーマにしたワークショップでは、小中学生が紙袋に毛糸、色紙、落ち葉を貼り付けるなどして帽子づくりを楽しむアクティビティが展開されました。そのほか、富山県と高志の国文学館友の会が主催し、富山県文化振興財団富山県教育文化会館が共催する「しげちゃん一座」の絵本ライブショーを開催しました。朗読や歌などを交えた工夫を凝らした演出がおこなわれ、舞台ステージ上でのパフォーマンスで、会場に集まった約400人の観客を魅了しました。



エントランス・導入展示



「おかあちゃんがつくつたる」「おおにしせんせい」とアトリエコーナー



「しげちゃん」「チンチンボンボさん」「会いたくて会いたくて」コーナー



【イベント】長谷川義史ライブアート



しげちゃん一座 ワークショップ（帽子づくり）

## □関連行事

### ① 【イベント】長谷川義史ライブアート

開催日	出演者	会場	参加者数
6月14日(金)	長谷川 義史 氏	当館エントランス	55名

### ② 長谷川義史×室井滋 開会記念トーク&サイン会

開催日	出演者	会場	参加者数
6月15日(土)	長谷川 義史 氏 室井 滋	当館ライブラリーコーナー	127名

### ③ しげちゃん一座 絵本ライブショー

開催日	出演者	会場	参加者数
7月27日(土)	しげちゃん一座 室井 滋 長谷川 義史 氏 岡 淳 氏(ジャズ・サクソ、フルート奏者) 大友 剛 氏(ピアニスト)	富山県教育文化会館	400名

### ④ しげちゃん一座 ワークショップ（帽子づくり）

開催日	講師	会場	参加者数
7月28日(日)	長谷川 義史 氏 室井 滋	当館研修室101	47名

### ⑤ 担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）

【開催日】 7月20日(土)、8月25日(日)、9月1日(日)

## (2)企画展「生誕 90 年 井上ひさし展 むずかしいことをやさしく やさしいことをふかく ふかいことをおもしろく」

会 期／令和 6 年 9 月 14 日 土～11 月 24 日 日  
主 催／高志の国文学館  
共 催／富山新聞社、チューリップテレビ  
特別協力／井上事務所、井上ひさし研究会、こまつ座、  
仙台文学館、遅筆堂文庫  
担 当／生田美秋（総括） 小林加代子（主務）  
観覧者数／2,735 人  
出品点数／204 点  
印 刷 物／チラシ A 4 判 ポスター A 1 判



チラシ 表



チラシ 裏

### 趣旨・総括

泣くのはいやだ笑っちゃおう 進め  
（「ひょっこりひょうたん島」テーマソングより）

小説家、劇作家と幅広く活躍した井上ひさし（1934～2010）は、自ら遅筆堂を名乗るほど遅筆でした。しかし、その作品の完成度は高く、笑い、ことば遊び、パロディ、どんでん返しなど、ことばの魔術師と呼ばれるほど日本語の豊かさとおもしろさにあふれています。

放送作家として手がけた『ひょっこりひょうたん島』は国民的人気番組となり、1972年に小説『手鎖心中』で第67回直木賞を受賞、1981年に刊行した『吉里吉里人』で、第2回日本SF大賞、第33回読売文学賞を受賞しました。1984年には劇団こまつ座を旗揚げし、『頭痛肩こり樋口一葉』『父と暮せば』など、演劇史に残る話題作を発表し続けました。

本展では、残された膨大な自筆原稿や創作資料、旧蔵書、愛用品の中から厳選し、生誕90年展にふさわしい充実した資料を紹介しました。

序章では、生い立ちから作家となるまでを、少年期

に親しんだ旧蔵書とともに紹介しました。第1章では、放送作家としての出発を、台本やテレビ番組主題歌の歌詞により紹介しました。第2章では、小説家としての仕事を、4作品に焦点を絞り、綿密な調査にもとづく創作資料、推敲の過程を伝える原稿とともに紹介しました。第3章では、「演劇にはとてつもない大きな力がある」と語った戯曲の仕事を、舞台写真や舞台映像とともに紹介しました。

企画展示室前の無料スペースでは、井上ひさし・文、安野光雅・絵『ガリバーの冒険』（文藝春秋、2012年）および井上ひさし『イソップ株式会社』（中公文庫、2008年）「第九のお話 すてきなジーンズ」より、館長・室井滋が朗読する音声と絵本や挿絵の画像を組み合わせた映像を会期中上映しました。また、企画展で紹介した作品を手にとり読むことのできるよう机と椅子を置き、井上ひさし企画展関連図書コーナーを設け、井上事務所（選・文）「小中学生にすすめたい井上ひさし作品」の紹介文とともに図書を配置しました。

関連行事では、開会式の日午後14:00から、井上ひさし夫人の井上ユリ氏による記念講演が開催されました。「ひさしさんの思い出」と題した講演では、膨大な本を体を使って身にしみこませるように読み、事実の隙間に嘘だと言いつれない虚構をしのばせる創作手法を、日常の具体的なエピソードとともにお話しいただきました。リーディング・シアターは、18:00開演でしたが、秋の夜、文字通り舞台そのもののような迫真の朗読劇に多くの人が聴き入りました。



企画展示室前の朗読映像上映コーナー



企画展示室入り口からの概観



第2章の展示



第3章の展示と映像上映コーナー（左）



第3章の戯曲のことは紹介コーナー



第4章の展示

## □関連行事

### ① 記念講演 ひさしさんの思い出

開催日	トーク	会場	参加者数
9月14日(土)	井上 ユリ 氏(井上ひさし夫人)	当館ライブラリーコーナー	107名

### ② リーディング・シアター（朗読劇）

開催日	出演者	作品	会場	参加者数
10月12日(土)	館長 室井 滋 内浦 純一(俳優) 瀬尾 智美(俳優) 木下 一哉(アナウンサー) 友井 賢太郎(ピアノ)	井上 ひさし 『インソップ株式会社』（中公文庫）、 「あくる朝の蟬」（『四十一番の少年』 文春文庫）より	当館ライブラリーコーナー	200名

### ③ 映画DVD上映会

開催日	作品	会場	参加者数
11月2日(土)	「父と暮せば」 原作：井上ひさし 監督：黒木和雄 配給：パル企画 2004年 99分	当館研修室101	68名

### ④ 担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）

【開催日】10月6日(日)、10月20日(日)、11月3日(日)、11月17日(日)

### (3)企画展「没後 20 年 詩と出会う旅 南桂子の世界展」

会 期／令和 6 年12月 7 日 国～  
 令和 7 年 2 月11日 国・祝  
 主 催／高志の国文学館  
 共 催／北日本新聞社、チューリップテレビ  
 協 力／ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション  
 香希画廊  
 担 当／生田美秋（総括） 亀島麻衣子（主務）  
 観覧者数／2,179人  
 出品点数／約130点  
 印 刷 物／チラシ A 4 判      ポスター A 1 判



チラシ 表



チラシ 裏

#### 趣旨・総括

南桂子（1911～2004）は現在の富山県高岡市に生まれ、県立高岡高等女学校では絵画制作や詩作に親しむ多感な少女時代を過ごしました。戦後まもなく上京し、銅版画と出会った南は、パリやサンフランシスコなど海外で活躍し、森の中の城、塔、少女や小鳥などをモチーフに、繊細で詩情あふれる銅版画作品を残しました。

銅版画家になる前の一時期、南は壺井栄に師事し、童話作家を志していたことがありました。新聞に掲載された作品のほか、遺品の巾着箱の中から詩や童話を書きつけた原稿用紙も見つかっており、南桂子のもうひとつの世界をのぞき見ることができます。

没後20年を機に開催した本展では、南桂子の自作の童話や詩、銅版画作品のほか、銅版画と組み合わせた詩人の詩などを3章に分けて紹介しました。

第1章「詩と童話の世界」では、上京前に富山で絵画制作に取り組む傍ら試みた短歌や詩などの文芸活動について紹介しました。また、初公開の童話原稿2篇と遺品の巾着箱を展示しました。第2章「銅版画の世界」では、銅版画作品を中心に南の国内外での活躍を

紹介しました。ユニセフで制作されたグリーティングカードや全客室に南作品が飾られたこともある帝国ホテル東京、書籍の表紙や挿絵など多くの人に知られた画業の一端を展示しました。第3章「銅版画と詩の世界」では、南桂子の銅版画と現代詩を組み合わせる展示をしました。谷川俊太郎氏や蜂飼耳氏、文月悠光氏の詩、小川洋子氏の随筆に加え、水沢なお氏の書き下ろし詩や最果タヒ氏の書き下ろしエッセイも展示しました。

また、企画展示室外では、富山在住の詩人である池田瑛子氏の詩と朗読に南桂子の銅版画を組み合わせた映像を上映しました。

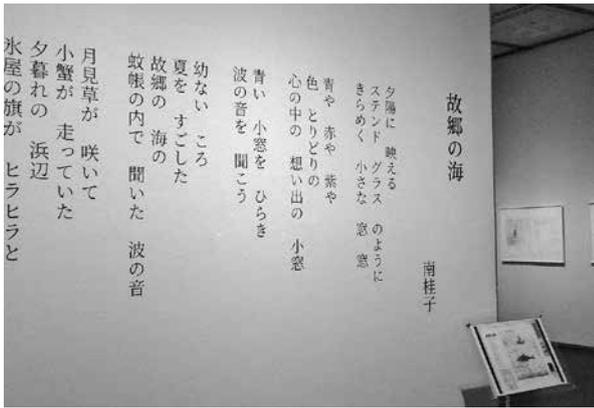
関連イベントでは、12月7日に水沢なお氏の講演＆サイン会、1月12日に群馬県立近代美術館の神尾玲子氏の講演、1月26日に高校生による朗読劇を県立高岡高等学校の放送部と演劇部などの生徒の出演で行いました。



エントランス 展示風景（フォトスポット）



エントランス 展示風景（映像）



導入 展示風景（南桂子の詩「故郷の海」）



第1章「詩と童話の世界」 展示風景



第2章「銅版画の世界」 展示風景



第3章「詩と銅版画の世界」 展示風景

## □関連行事

### ① 講演&サイン会

開催日	講師	演題	会場	参加者数
12月7日(土)	水沢 なお 氏(詩人)	「詩の海はどこまでも広がっていく」	当館研修室101 ライブラリー コーナー	37名

### ② 講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
1月12日(日)	神尾 玲子 氏 (群馬県立近代美術館 次長兼学芸係長)	「南桂子 銅版画の魅力」	当館研修室101	44名

### ③ 高校生による朗読劇「南桂子の童話と出会う旅」

開催日	出演者	会場	参加者数
1月26日(日)	県立高岡高等学校 放送部と演劇部のみなさん	当館研修室101	71名

### ④ 担当者によるギャラリートーク（展示解説）

【開催日】12月14日(土)、1月19日(日)、2月2日(日)、2月9日(日)

# 「第1回 しあわせを伝えよう！ 絵てがみ展」

会 期／令和7年2月22日(土)～3月17日(日)  
主 催／高志の国文学館  
後 援／一般社団法人日本絵手紙協会  
担 当／森田真己(総括)、棚辺夏生(主務)  
観覧者数／2,567人  
展示点数／740点  
印刷物／チラシA4判 ポスターA1判



チラシ 表



チラシ 裏

## 趣旨・総括

「ウェルビーイング—しあわせを伝えよう!」をテーマに、普通よりもちょっと大きなサイズの絵てがみを、令和7年7月から9月にかけて全国から募集しました。応募を促すため、募集期間中には、絵てがみ教室も開催しました。

一般の方々から絵てがみを募集し、企画展示室で展示を行うという初めての試みでしたが、想定を大きく上回り、一般の部・子どもの部合計で1,066点もの素敵な絵てがみが集まりました。その中から、室井滋館長を含む審査員が、知事賞をはじめとした入賞絵てがみを選び、322点の絵てがみが入賞となりました。

本展では、文学館へ寄せられた絵てがみのうち、入賞絵てがみ、子どもの部の全絵てがみ、一般の部の富山県在住者の全絵てがみ、審査員絵てがみ、合わせて740点を一堂に展示しました。展示室前の入口には、オリジナルの和紙で制作した表彰状の展示や、322点の入賞絵てがみをスライドショー形式で紹介する映像コーナーも設置しました。観覧者の皆様には、しあわせいっぱい絵てがみをご覧いただき、見る・聞くだけではなく「創る」文学の楽しさやウェルビーイングの身近さをご体感いただきました。

開会日には、知事賞・優秀賞・審査員特別賞・ウェルビーイング賞の受賞者を対象とした表彰式を実施し

ました。その後、漫才師母心の嶋川武秀氏(オカン)と室井館長による約100点もの絵てがみの朗読とトークのイベントも開催し、観客の皆様にも心温まる時間を過ごしていただきました。

## ＜「第1回しあわせを伝えよう!」

### 絵てがみ作品募集」概要＞

- 【テ ー マ】 ウェルビーイング—しあわせを伝えよう!  
(しあわせに思うことについて)
- 【募集期間】 令和6年7月1日(月)～9月30日(月)
- 【審査員】 江尻 碧氏(エイゴアート代表・パステル画家)  
嶋川 武秀氏(漫才師 母心)  
吉野 仁氏(富山絵手紙の会会長)  
室井 滋(高志の国文学館館長)
- 【表 彰】 ■一般の部(高校生以上)

【応募数】 767点

知事賞1点、優秀賞5点、  
審査員特別賞4点、  
ウェルビーイング賞1点、  
金賞40点、銀賞50点、銅賞60点

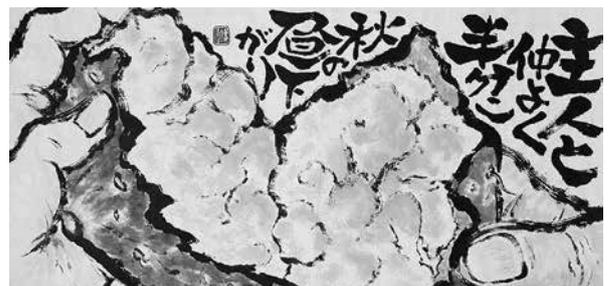
■子どもの部(中学生以下)

【応募数】 299点

知事賞1点、優秀賞5点、  
審査員特別賞4点、  
ウェルビーイング賞1点、  
金賞40点、銀賞50点、銅賞60点



子どもの部知事賞



一般の部知事賞



展示風景（知事賞・優秀賞・審査員特別賞・ウェルビーイング賞）



展示風景（金賞・銀賞・銅賞など）



展示風景（表彰状）



展示風景（審査員絵てがみ）

## □関連行事

### ① 絵てがみ教室

開催日	講師	会場	参加者数
9月28日(土)、 29日(日)	吉野 仁 氏(富山絵手紙の会会長)	当館研修室101	69名

### ②「第1回 しあわせを伝えよう！ 絵てがみ展」表彰式・絵てがみ朗読&トークイベント

開催日	出演	会場	参加者数
2月22日(土)	江尻 碧 氏(エイゴトアート代表・パステル画家) 嶋川 武秀 氏(漫才師母心) 吉野 仁 氏(富山絵手紙の会会長) 室井 滋(高志の国文学館館長)	当館ライブ ラリーコーナー	150名

## (4)企画展「池波正太郎展—人間通のまなざし」

会 期／令和 7 年 3 月 29 日 土～ 6 月 9 日 日  
主 催／高志の国文学館  
共 催／北日本新聞社、富山テレビ放送  
監 修／鶴松房治氏（池波正太郎記念文庫指導員）  
特別協力／株式会社オフィス池波、池波正太郎記念文庫、池波正太郎ふれあい館  
担 当／生田美秋（統括）、綿引香織（主務）  
観覧者数／4,046人  
出品点数／443点  
印 刷 物／チラシ A 4 判      ポスター A 1 判



チラシ 表



チラシ 裏

### 趣旨・総括

『鬼平犯科帳』『剣客商売』『仕掛人・藤枝梅安』『真田太平記』などの人気シリーズを生み出した作家・池波正太郎（1923～1990）。ドラマ化・映画化・アニメ化によってファン層の裾野を広げたその作品は、没後35年を迎える現在も、多くの読者に読み継がれています。

東京浅草で生まれ育ち、劇作家として出発した池波の時代小説には、江戸の町を彷彿とさせるような情緒があり、登場人物たちが営む日々の暮らしの風景に、季節感漂う料理が彩りを添えています。また、善悪両面を併せ持つ、矛盾に満ちた「人間」という存在を深く見つめ、独自の造語や文体により、登場人物たちが織り成すドラマを描き出しているところに、色あせない魅力があります。

本展では、新しい時代小説の世界を切り開いた池波作品の魅力と創作の舞台裏について、貴重な自筆原稿や創作資料、挿絵原画等により掘り下げました。あわせて、小説と並んで人気の高い、食、映画、旅などについて語ったエッセイや、晩年趣味とした絵画の世界、父方の先祖の出身地である越中井波の人々との交流な

ど、作家の横顔についてもご紹介しました。

導入展示では、富山いずみ高校書道部による書道パフォーマンス作品（エッセイからの抜粋）、池波原作の映画・テレビ作品の予告映像（日本映画放送株式会社提供）、依頼原稿による「わたしの好きな池波正太郎作品」紹介パネル、初心者向けの「はじめての池波正太郎」パネルなどを展示。「池波作品に登場する料理」投票コーナーも設置しました。

第1章「池波正太郎の歩み—ゆかりの地、人」では、年譜や写真、作品の掲載誌、自伝的エッセイ等をもとに、池波の生涯と作家としての歩みを紹介。作家になるにあたって影響を受けた人々とのエピソードを紹介するパネル、人気作家であることを物語る膨大な著書の一部や連載年表などを展示しました。

第2章「作品世界—時代小説の金字塔」では、『鬼平犯科帳』『剣客商売』『仕掛人・藤枝梅安』『真田太平記』などの代表作を中心に、作品世界の魅力と創作の舞台裏について、原稿や執筆関連資料、初出誌、初版本、挿絵原画、写真等により紹介しました。映像化された作品の台本、ポスター等も展示。数々の作品が生まれた書斎の写真や蔵書、愛用品等により、「池波正太郎の書斎」再現コーナーも設けました。

第3章「エッセイと絵筆—作家の横顔」では、食、映画、旅などについて語ったエッセイと、晩年趣味とした絵画の世界を紹介。色鮮やかで味わい深い絵画が目を引きました。最後に設置した「父祖の地・井波の人々との交流」コーナーでは、晩年に得た新たな「ふるさと」である南砺市井波の人々との交流の様子を、写真、書簡、色紙、映像等により紹介しました。

また、関連行事としては、富山いずみ高等学校書道部による書道パフォーマンス（プレイベント）、鶴松房治氏、山本一力氏による講演、大和秀夫氏によるトーク、担当学芸員による展示解説を開催しました。



導入展示



第1章 展示風景



第2章 展示風景



第3章 展示風景



「父祖の地・井波の人々との交流」コーナー 展示風景

## □関連行事

### ① 講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
3月29日(土)	鶴松 房治 氏 (池波正太郎記念文庫指導員)	作家・池波正太郎、人と作品	当館研修室101	97名

### ② 講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
4月13日(日)	山本 一力 氏(作家)	群青色の暑中見舞	当館研修室101	106名

### ③ トーク

開催日	講師	演題	会場	参加者数
5月11日(日)	大和 秀夫 氏 (池波正太郎ふれあい館解説員)	井波での池波正太郎	当館研修室101	65名

### ④ 担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)

【開催日】 4月5日(土)、4月27日(日)、5月18日(日)、6月8日(日)

## 2. 資料概況

### □資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料			美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	書簡	絵画・書跡、その他						
～R5	購入	17,137	186	227	151	6	81	494	2	116	18,400
	寄贈	52,574	2,322	11,296	3,994	889	2,042	904	130	310	74,461
	製作	12	28	5	33	17	1	7	0	21	124
	小計 (A)	69,723	2,536	11,528	4,178	912	2,124	1,405	132	447	92,985
R6	購入	373	2	2	0	0	0	10	0	0	387
	寄贈	578	13	128	53	0	1	24	1	0	798
	製作	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
	小計 (B)	951	15	130	53	0	1	39	1	0	1,190
～R5 + R6合計		70,674	2,551	11,658	4,231	912	2,125	1,444	133	447	94,175

令和2年度に資料分類の見直しを行い、令和3年度の受入資料から新分類基準を適用。

(令和2年度までの資料数の統計は、旧分類基準に依拠している。)

旧分類での「原画」は「絵画・書跡、その他」(令和4年度年報までは「色紙・短冊・一枚もの、その他」と表記)へ統合。

### □主な新収蔵資料

#### 寄 贈

作者等	資料名
尾島庄太郎	尾島庄太郎旧蔵資料 215点
翁久允	翁久允関連資料 37点

#### 購 入

作者等	資料名
小寺菊子	原稿「若い女作家たち二三」(200字詰め原稿用紙13枚)
翁久允	書簡「木俣修宛封書」(1949年8月5日消印)
冠松次郎	草稿「新緑の旅」(400字詰め原稿用紙10枚)
冠松次郎	書簡 安川茂雄宛年賀状 (1970年1月1日消印)

### 3. 教育・普及事業

令和6年度は、昨年度に引き続き「室井滋の文学サロンきときとの仲間たち」「室井滋の夜嘶」「夏のこどもフェスティバル」など、高志の国文学館内で、多彩なイベントを実施した。

#### □室井滋の文学サロンきときとの仲間たち

開催日／令和6年5月6日(月・祝)、8月11日(日・祝)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／計310名

室井滋 館長が作家、俳優、アーティスト、研究者など多彩な分野のいまが旬・キトキトのゲストをお迎えして講演と対談を行うシリーズ。

第1回は東京大学大学院卒、元学芸員というの異色のマジシャン Tokyo Tomo (トーキョー・トモ) さんをゲストにお迎えし、「奇術師 Tokyo Tomo の奇妙な帽子」と題し、トークを交えながらマジックを披露いただいた。

第2回は歌人 穂村弘をゲストにお迎えし、「言葉の不思議、短歌の楽しみ」についてご講演いただいた。また、本イベントの開催にあわせて、みなさまより募集した「夏の思い出」を題材とした短歌の中から優秀作品の発表と講評を行った。



左 Tokyo Tomo (マジシャン) 右 室井滋 (館長)



左 穂村弘 (歌人) 右 室井滋 (館長)

開催日	出演者	講演題	観覧者数
5月6日(月・祝)	Tokyo Tomo 氏 (マジシャン)	「奇術師 Tokyo Tomo の奇妙な帽子」	160名
8月11日(日・祝)	穂村 弘 氏 (歌人)	「言葉の不思議、短歌の楽しみ」	150名

## □室井滋の夜噺 ミュージックスペシャル

開催日／令和6年7月28日回

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出演／岡 淳 氏（ジャズ・サクソ、フルート奏者）

大友 剛 氏（ミュージシャン&マジシャン&翻訳家）

岡本 勝之 氏（ベーシスト）

長谷川 義史 氏（絵本作家）

参加者／150名

室井滋館長が率いるしげちゃん一座の仲間が「Fly me to the moon」を演奏に始まり、室井滋館長と絵本作家の長谷川義史さんによる「チビのおねがい」の朗読、「チンチンボンボのエレジー」や「夢を見るのを忘れたの」の披露に加え、長谷川義史さんによるライブペインティングも実施され、会場は大いに盛り上がった。



## 夏のこどもフェスティバル

開催日／令和6年7月26日回～8月26日回

高志の国文学館で夏休みの期間に子ども向けイベントを開催。

「室井滋の“きとっぴ”と遊ぼう&学ぼう！」などのイベントで、子どもや家族連れが数多く文学館に来館。

## 夏のこどもフェスティバル各種イベント

### □めざそうジュニア学芸員！

開催日／令和6年7月21日回、8月4日回、  
8月31日回

会場／高志の国文学館研修室101、企画展示室

参加者／計8名

学芸員の仕事を体験後、展示解説に挑戦するイベントを開催。

高志の国文学館の学芸員が、学芸員の仕事について、参加した小学生に説明し、最後は参加者自らが、展示を調査し、来館者に解説を実施した。



## □アフレコ体験教室

開催日／令和6年8月3日 日

会 場／高志の国文学館研修室101

参加者／8名

芸能オフィスリレーシヨンの講師をお招きし、アフレコチャレンジ教室を開催。講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行った。



## □室井滋の“きとっぴ”のまな防災！

開催日／令和6年8月10日 日

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー、  
研修室101（ワークショップ）

参加者／100名

文学館にNHK 富山放送局マスコットキャラクター“きとっぴ”が登場。室井館長と防災についてのトークやクイズコーナーを開催。併せてワークショップ（ポシエツトづくり）も実施。



## □チャレンジ読書感想文！

～富山大学の学生と一緒に、物語をじっくり、深く読み、考えよう

開催日／令和6年8月12日 日・ 金

会 場／高志の国文学館研修室101

参加者／12名

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校3～4年生を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

昨年度に引き続き、富山大学の学生と一緒に読書会をし、感想文にまとめた。



## □イラスト体験教室

開催日／令和6年8月17日(土)

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／21名

オフィスリレーションの講師をお招きし、イラスト体験教室を開催。絵を描くためのノウハウを学び、キャラクターデザインを体験。



## □作って遊ぼう！楽しい工作教室

開催日／令和6年8月18日(日)

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／14名

田中世津子氏を講師に招き、夏休みの工作づくりに挑戦。



## □まんがフカヨミ教室

開催日／令和6年8月24日(土)

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／7名

金沢星稜大学女子短期大学部教授 山田範子氏とドラえもんをじっくり読み、新たな作品の世界を発見。



## 県立施設とのコラボ企画

### □富山県中央植物園学芸員による特別講演 万葉集の植物－サクラと「万葉の庭」の植物を中心に

開催日／令和7年2月11日(日)・㊟

会場／高志の国文学館研修室101

講師／大原 隆明 氏 (富山県中央植物園 企画情報課長補佐)

参加者／94名

高志の国文学館「万葉の庭」で植栽している、1300年前の伴家持の時代に万葉集で読まれたカタカゴやオミナエシなどの可憐な草花やツママ、ヤマザクラなどの草木などの魅力を富山県中央植物園の学芸員が語った。

## その他のイベント

### □観桜の集い2024

開催日／令和6年4月6日(日)～7日(日)

会場／高志の国文学館万葉の庭特設ステージ

(ステージ発表)

ライブラリーコーナー、正面エントランス

(作品・いけばな展示)

参加者／150名

令和6年4月7日(日)「観桜の集い2024」を開催。

可西舞踊研究所、大川都バレエ教室、和田朝子記念 Air Ballet Studio、津田バレエスタジオによる洋舞に始まり、室井館長らによる特別朗唱・朗読、アレマー玉井さんによるマジック、藤間松山社中による日本舞踊など様々な演目が披露された。最後は、富山中部高等学校コーラス部による合唱で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、いけばな展示が行われ、会場は多くの人で賑わった。



万葉の庭特設ステージ



## □総入館者数120万人達成セレモニー

開催日／令和6年4月21日回

会場／高志の国文学館正面エントランス

平成24年7月の開館からの総入館者数が120万人を達成したことを記念したセレモニーを高志の国文学館のエントランスで開催。120万人目の来館者に、新田八朗富山県知事、室井滋高志の国文学館館長からそれぞれ記念品の贈呈が行われた。



## □高志プロジェクトの実施

開催日／令和6年5月26日回

会場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、令和6年度には3者が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定者による研究成果報告会も行われた。



### 【令和6年度認定者】

	氏名	研究課題名
1	東北大学 "Some Chinese Ghosts" 研究チーム	ラフカディオ・ハーンの中国受容に関する研究 ―ヘルン文庫蔵 Some Chinese Ghosts を中心に―
2	大野 順子 氏 (金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授)	越中歌枕「奈呉の海」の歌語的展開について
3	佐藤 健太郎 氏 (千葉大学法政経学部教授)	『富山日報』四ツ橋銀太郎の総合的分析

### 【令和5年度認定者による研究成果報告会】

	氏名	研究課題名
1	角田 佑一 氏 (上智大学神学部神学科准教授)	角川源義の初期文学・思想の研究
2	野口 英佑 氏 (中華医事科技大学 大学社会責任実践計画事務室博士研究員)	日本統治時代初期・台湾における中辻喜次郎の企業家および政治家としての活動とその影響
3	山田 範子 氏 (金沢星稜大学女子短期大学部教授)	富山ゆかりのマンガ作品の分析と教材開発

## □観月の集い2024

開催日／令和6年9月21日田～23日圓・祝

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

(舞台発表)

研修室101 (作品・生け花展示)

参加者／130名

令和6年9月21日(土)、中秋の名月の日にちなみ、「観月の集い2024」を開催。

舞台発表は、第1部“月を詠む”俳句の夕べ、第2部“月を愛でる”生け花と音楽の夕べの2部制。

「第1部“月を詠む”俳句の夕べ」では、月にちなんだ俳句を募集し、優秀作の表彰を実施。

「第2部“月を愛でる”生け花と音楽の夕べ」では、梅野恵秀氏(草月流富山県支部舘の会代表、富山県華道連合会理事)による生け花のデモンストレーションや中川佳美氏(ピアニスト)によるピアノの演奏を合わせたステージ発表。また、文学館の研修室で活動されている芸術・文化団体による作品展示や秋の生け花展示を実施。



## □朗読と音楽の夕べ2024

開催日／令和6年11月22日金、12月21日土、

令和7年3月15日土

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／計293名

11月から3月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

第1回及び第3回は令和6年度の企画展に合わせた作品、第2回はハンス・クリスチャン・アンデルセン「モミの木」の朗読が行われた。



開催日	出演者	作品	観覧者数
11/22(金)	朗読：橋本 星奈 氏 (チューリップテレビ) 演奏：島田 恭歌 氏 (ヴァイオリン) 戸島 園恵 氏 (ピアノ)	井上ひさし 小説『ナイン』収録 短編小説「握手」	114名
12/21(土)	朗読：南 歩薫 氏 (北日本放送) 演奏：中川 歩美 氏 (ピアノ)	ハンス・クリスチャン・アンデルセン 「モミの木」	87名
3/15(土)	朗読：深津 麻弓 氏 (富山テレビ放送) 演奏：西田 宏美 氏 (クラリネット) 松浦 有里 氏 (ピアノ)	池波正太郎のグルメエッセイより 数作品	92名

## □絵てがみ教室

開催日／令和6年9月28日 子どもの部（中学生以下）  
令和6年9月29日 一般の部（高校生以上）

会場／高志の国文学館研修室101

出演／吉野仁氏（富山絵手紙の会会長）

参加者／計69名

絵てがみの応募を促すため、子どもの部（28日）と一般の部（29日）に分けて教室を開催。

昨年度に引き続き、講師に吉野仁氏（富山絵手紙の会会長）を迎え、小学生から大人まで幅広い世代の方が「創る」楽しさを体験した。



## □書道パフォーマンス

開催日／令和7年3月20日 困・㊦

会場／高志の国文学館エントランスゾーン

出演／富山県立富山いずみ高等学校 書道部

参加者／50名

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催した。

作品は企画展「池波正太郎展一人間通のまなざし（令和7年3月29日（土）～6月9日（月））」の開催中、エントランスに展示した。



## □ミュージアムコンサート

開催日／令和7年2月15日 田

場所／高志の国文学館ライブラリーコーナー

県にゆかりのある若手演奏家の発表の機会を創出するとともに、県民の皆さんに、身近な場所で質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、美術館や歴史的建造物などを活用したミュージアムコンサートを開催。

演奏は大畑理博氏（バリトン）、比嘉祥人（クロマティックハーモニカ）、藤井亜里沙（ピアノ）。



## □令和6年度文学講座

令和6年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」と「富山を知る・学ぶ」を開催した。

### 大学連携シリーズ

開催日	講座名	講師	受講者数
4/28(日)	富山の時空の物語—特色ある地形はどのようにしてできたか	富山大学 都市デザイン学部・准教授 安江 健一 氏	76名
5/3(金・祝)	日本語および日本文化の再認識—日本語教育との関連から	富山大学 教養教育院・教授 ヨフコバ 四位 エレオノラ 氏	59名
5/11(土)	well-being 向上に向けた心理学的アプローチ	富山大学 大学院教職実践開発研究科・教授 石津 憲一郎 氏	40名
7/6(土)	ラフカディオ・ハーンとフランス詩人たち	富山大学 学術研究部人文科学系・教授 中島 淑恵 氏	58名

### 富山を知る・学ぶシリーズ

開催日	講座名	講師	受講者数
9/7(土)	前田普羅、富山に来る—移住前後の動向を中心に—	富山大学 学術研究部人文科学系・准教授 田部 知季 氏	35名
10/5(土)	佐伯宗義 万里一條鐵—その信念と実行力「一県一市街化」とコンパクトシティ構想	富山地方鉄道株式会社 富山地方鉄道百年史編纂事務担当 村井 義治 氏	40名
11/16(土)	大伴家持 越中で覚えた遊び—鶺鴒の楽しみ	慶應義塾大学名誉教授 高岡市万葉歴史館館長 藤原 茂樹 氏	43名
12/15(日)	百人一首を知ろう—競技かるたの楽しみと百人一首の謎	前富山県立図書館長 全日本かるた協会 A 級公認読手 中崎 圭子 氏	58名

## □文学館教育・啓発アウトリーチ事業

著名な作品や富山ゆかりの作品のパネルを小・中・高校等向けに貸出。

## 4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

令和6年度は、主要イベントである県内バスツアー及び研修旅行を開催したほか、富山県教育文化会館との連携による「しあわせにな〜れ！ 長谷川義史のえほん展」関連イベント『しげちゃん一座 絵本ライブショー』、そして、レストラン「シェ・ヨシ」との連携による「ワークショップ・リースづくり&室井館長と一緒に茶話会」を開催した。

**会員数** 442名(令和7年3月31日現在)

一般会員	307		
法人会員	9		
5年会員(個人)	106	5年会員(法人)	0
賛助会員(個人)	14	賛助会員(法人)	3
学生会員	3		

### 会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員(個)	10,000円
5年会員(法)	100,000円
賛助会員	一口10,000円

### 特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待

### 令和6年度事業

#### 【県内バスツアー】

- ・紅葉シーズンの宇奈月 吟遊ツアー(中止)  
令和6年11月9日(土)  
黒部峡谷トロッコ鉄道、宇奈月温泉「延対寺荘」

- ・企画展「池波正太郎展－人間通のまなざし」と贅沢若鮎の昼食 南砺日帰りの旅  
令和7年3月22日(土)  
南砺市立福光美術館、棟方志功愛染苑、小牧 庄川峡遊覧船、池波正太郎ふれあい館、八日町通り、道の駅井波

#### 【研修旅行】

- ・初夏の軽井沢と安曇野 文学と食を楽しむ2日間  
令和6年7月7日(日)、7月8日(月)  
堀辰雄文学記念館、軽井沢千住博美術館、軽井沢高原文庫、上田城跡公園、安曇野ちひろ美術館、大王わさび農場、高橋まゆみ人形館
- ・大相撲1月場所&室井館長出演の演劇鑑賞 東京見聞録2日間の旅  
令和7年1月17日(金)、18日(土)  
すみだ北斎美術館、両国国技館(大相撲1月場所)、池波正太郎記念文庫、森鷗外記念館、本多劇場(りぼん [室井館長出演])

#### 【連携事業】

- ・富山県教育文化会館との連携による「しあわせにな〜れ！ 長谷川義史のえほん展」関連イベント『しげちゃん一座 絵本ライブショー』  
令和6年7月27日(土)
- ・レストラン「シェ・ヨシ」との連携による「ワークショップ・リースづくり&室井館長と一緒に茶話会」  
令和6年11月4日(月・振替休日)

### 理事会

令和6年5月27日(木)

---

## Ⅲ 管理・運営

---

# 1. 利用状況

## (1)入館者数・観覧者数

区分	会期	日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計	1日 あたり
堀辰雄展 生誕120年展 “風立ちぬ”堀辰雄と軽井沢の 文学者たち	R6.4.1～R6.6.3 (R6.3.23～R6.6.3)	55 (63)	16,991 (19,754)	1,695 (1,932)	1,632 (1,872)	3,327 (3,804)	60 (60)
しあわせにな～れ! 長谷川義史のえほん展	R6.6.15～R6.9.2	69	21,699	3,640	3,596	7,236	105
生誕90年 井上ひさし展	R6.9.14～R6.11.24	62	19,240	2,735	2,350	5,085	82
没後20年 詩と出会う旅 南桂子の世界展	R6.12.7～R7.2.11	53	15,972	2,179	1,704	3,883	73
第1回 しあわせを伝えよう! 絵てがみ展	R7.2.22～R7.3.17	21	8,923	2,567	527	3,094	147
池波正太郎展 一人間通のまなざし	R7.3.29～R7.3.31 (R7.3.29～R7.6.9)	3 (63)	1,117 (21,748)	266 (4,046)	180 (3,604)	446 (7,650)	149 (121)
常設展のみ		43	13,026		554	554	13
常設展入れ替え (ライブラリーのみ)							
合計		306	96,968	13,082	10,543	23,625	77
休館日		59					

開館日数／ 306日

休館日数／ 59日

開館時間／ 9時30分から18時まで (観覧受付は17時30分まで)

休館日／ 火曜日 (祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始 (12月29日から1月3日)

※年度をまたぐ企画展については令和6年度分の実績 (上段) と会期全体の実績 (下段) を併記

## (2) 研修室の利用状況

年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
6	4月	25	5	12	331	17	112	35	283
	5月	27	4	34	385	13	64	41	242
	6月	26	4	24	329	12	77	37	264
	7月	26	5	29	361	12	71	35	208
	8月	27	4	29	534	23	113	37	262
	9月	26	4	33	827	18	85	46	260
	10月	26	5	23	510	11	42	39	226
	11月	25	5	27	596	20	68	48	284
	12月	24	7	18	443	18	66	38	199
7	1月	24	7	22	260	17	61	35	207
	2月	24	4	35	645	17	80	41	294
	3月	26	5	32	435	25	78	45	266
合 計		306	59	318	5,656	203	917	477	2,995

年	月	研修室201		研修室202		和 室		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
6	4月	23	63	17	36	15	27	119	852
	5月	22	68	35	83	19	48	164	890
	6月	31	73	18	43	20	38	142	824
	7月	28	69	15	30	24	45	143	784
	8月	29	70	28	84	8	22	154	1,085
	9月	36	86	16	30	21	48	170	1,336
	10月	31	72	14	23	23	52	141	925
	11月	34	87	29	56	16	34	174	1,125
	12月	37	96	30	63	27	46	168	913
7	1月	31	79	14	28	18	47	137	682
	2月	26	62	11	20	15	37	145	1,138
	3月	42	108	24	43	21	45	189	975
合 計		370	933	251	539	227	489	1,846	11,529

## (3) 年度別利用状況

区 分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合 計	1 日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	303	108,138	13,839	16,260	30,099	99	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
平成31年度	308	116,548	27,456	27,497	54,953	178	2,024	13,466
令和2年度	287	62,154	9,384	8,362	17,746	62	1,322	6,993
令和3年度	279	58,868	7,950	7,374	15,324	55	1,439	7,618
令和4年度	303	70,089	8,907	8,511	17,418	57	1,612	9,486
令和5年度	305	94,210	13,232	11,892	25,124	82	1,867	11,825
令和6年度	306	96,968	13,082	10,543	23,625	77	1,846	11,529
合 計	3,844	1,291,587	208,357	227,035	435,392	1,496	21,665	154,674

## 2. 施設の概要



### 施設概要

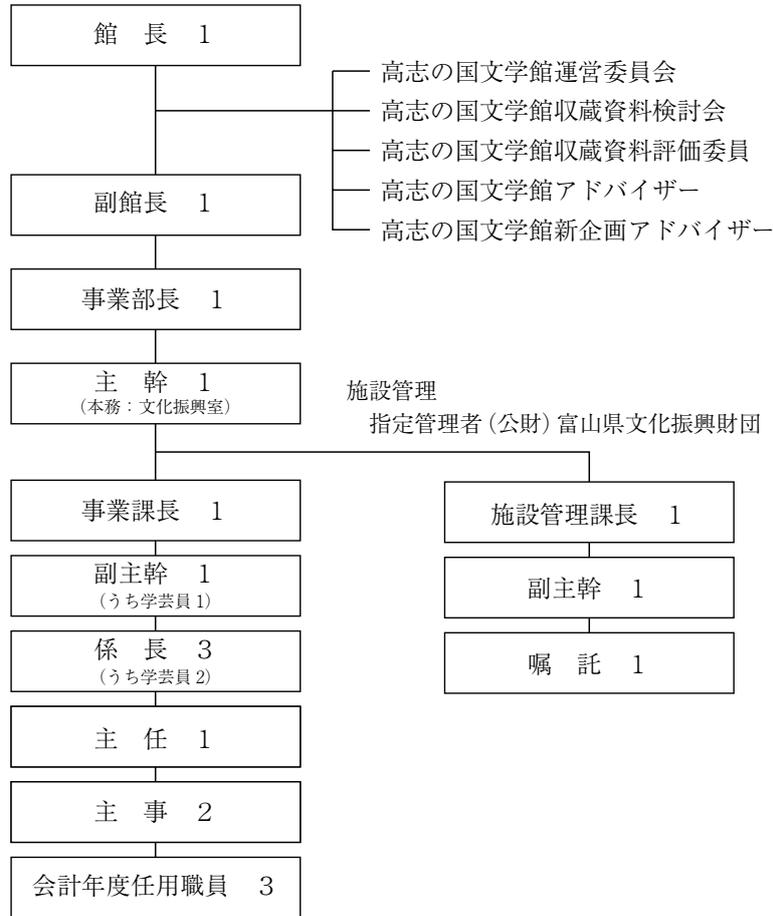
所在地	富山市舟橋南町 2 番22号
構造	RC、一部 SRC、S
規模	地上 2 階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷地	13,729㎡
設計	シーラクスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社 ほか
総工費	1,947,135,080円
工期	起工 平成23年 7 月 4 日 竣工 平成24年 7 月 3 日

### 受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年 6 月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年 5 月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年 1 月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年 4 月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
B C S 賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

### 3. 機構

令和7年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度 (公財)富山県文化振興財団  
 平成27年度～平成31年度 (公財)富山県文化振興財団  
 令和2年度～令和6年度 (公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	室井 滋	
副館長	森田 真己	
事業部長	生田 美秋	
主幹	窪田 諭	本務 文化振興室主幹
事業課長	福澤 美幸	
副主幹	大川原 竜一	学芸員
係長	今村 育代	兼務 文化振興室
係長	綿引 香織	学芸員
係長	大橋 加代子	学芸員
主任	亀島 麻衣子	
主事	棚辺 夏生	兼務 文化振興室
主事	小竹 隼太郎	兼務 文化振興室
会計年度任用職員	高田 志津子	
会計年度任用職員	佐藤 あゆ美	
会計年度任用職員	柳瀬 珠美	
施設管理課長	長井 秀年	
副主幹	角波 学	
嘱託	魚屋 美智乃	

## 4. 組織

令和7年3月31日現在

### 高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
伊東 眞	(一社) 富山県芸術文化協会会長
上田 洋一	富山県歌人連盟会長
上野 誠	國學院大學文学部日本文学科教授(特別専任)
内山 真理子	公募委員(会社員)
鶴野 佑佳	富山県PTA連合会副会長
大井山 靖征	日本青年会議所富山ブロック協議会長
飛田 久子	富山県婦人会副会長
豊田 瑞穂	富山県小学校長会副会長
中垣 理子	世田谷文学館学芸部長
羽根 由	元(株)PCO取締役会長
麦野 英順	(株)北陸銀行特別顧問、富山経済同友会代表幹事

### 高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
滝田 洋二郎	映画監督

### 高志の国文学館新企画アドバイザー

氏名	役職等
太田 麻衣子	株式会社博報堂クリエイティブ・ヴォックス取締役
菓子 浩	ドラマプロデューサー
柏原 光太郎	Kassie & Co. 株式会社 代表取締役
高成 麻由子	株式会社 TBS テレビ 情報制作局
本木 克英	映画監督
山内 マリコ	作家

---

## IV 資 料

---

# 沿革

年 月 日	事 項
平成24年 7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉—風土とこだまする家持の心」開催
7月15日	入館者1万人達成
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代—小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道—」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人達成
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪—大自然に生きる母と子の物語—」開催
4月 7日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月 7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
8月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月 3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝—棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別荣誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄のSF（すこし・ふしぎ）」開催
4月 6日	入館者25万人達成
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示 開催
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」開催
8月 4日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学—うつりゆく富山の歴史の中で—」開催
平成27年 1月 7日	ギャラリー展「『冷光文庫』展—富山におり立った「雪の女王」を訪ねて—」開催
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと—富山の川をめぐる文学と美術の交響—」開催
3月13日	企画展「三禅定の旅—立山・白山・富士山をめぐる—」開催
5月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」開催
5月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明 挿絵原画展」開催
7月11日	企画展「あの日、青い空から—久世光彦の人間主義」開催
7月19日	入館者40万人達成
9月 9日	ギャラリー展「『海』物語 憧れ・神秘・畏怖—海づくり大会によせて—」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情—田中冬二へのいざない」開催
平成28年 1月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸—ミステリー文学でたどる—」開催
3月21日	企画展「夢二の旅—たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
6月 3日	ギャラリー展「富山映画展—スクリーンの中のひとと風景—」開催
7月 3日	入館者50万人達成
7月 9日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎—九転十起の生涯」開催
平成29年 1月14日	企画展「知られざる作家の世界—書簡から直筆原稿、書画まで」開催
3月19日	企画展「官人 大伴家持—困難な時代を生きた良心」開催
5月29日	天皇皇后両陛下ご視察
6月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	入館者60万人達成
7月23日	企画展「おわらと林秋路—風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝—人間のあたたかさ、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二 音楽を描く」開催

年 月 日	事 項
平成30年 3月18日	企画展「歌人 大伴家持—現代と響き合う詩心」開催
5月14日	入館者70万人達成
6月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
8月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」開催
平成31年 1月6日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
3月17日	企画展「家持発見—響き合う詩歌と絵画」開催
4月27日	入館者80万人達成
令和元年 5月25日	企画展「宮沢賢治 童話への旅」開催
7月27日	企画展「谷川俊太郎の宇宙」開催
10月6日	特別展「藤子不二雄 <sup>Ⓐ</sup> 展— <sup>Ⓐ</sup> の変コレクション—」開催
令和2年 1月19日	企画展「生誕110年 中島敦展」開催
2月16日	入館者90万人達成
4月11日	企画展「生誕170年 ラフカディオ・ハーンの共感力—発見、探求、そして発信へ」開催
7月26日	企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展 角野栄子の魔女」開催
9月20日	企画展「米国アカデミー賞監督 滝田洋二郎 展」開催
令和3年 2月6日	企画展「久泉迪雄の書齋から—“悠かなり 富山の文化”」開催
4月29日	企画展「映画監督 本木克英 展」
7月10日	企画展「まど・みちおのうちゅう—「ぞうさん」の詩人からの手紙」
10月2日	入館者100万人達成
10月30日	企画展「太宰 治 創作の舞台裏 展」
令和4年 1月16日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第1期
3月30日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第2期
6月25日	開館10周年記念企画展「荒井良二の PICTURE BOOK<絵・本>」開催
9月24日	開館10周年記念企画展「没後50年 芥川賞作家 柏原兵三展」開催
12月24日	開館10周年記念企画展「没後50年 川端康成 展—愛を乞う魂」開催
令和5年 3月19日	開館10周年記念企画展・G7教育大臣会合開催記念「百人一首—和歌と美の世界 展」開催
3月31日	入館者110万人達成
5月12日	G7 富山・金沢教育大臣会合における高志の国文学館視察
6月24日	企画展「絵本作家 降矢なな原画展」開催
9月24日	企画展「富山新聞創刊100年記念 ドナルド・キーン 世界から見た日本文学展」開催
12月16日	企画展「没後50年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！展」開催
令和6年 3月23日	企画展「堀辰雄生誕120年展 “風立ちぬ”堀辰雄と軽井沢の文学者たち」開催
4月21日	入館者120万人達成
6月15日	企画展「しあわせにな〜れ！ 長谷川義史のえほん 展」
9月14日	企画展「生誕90年 井上ひさし展」
12月7日	企画展「没後20年 詩と出会う旅 南桂子の世界展」
令和7年 2月22日	「第1回 しあわせを伝えよう！絵てがみ展」
3月29日	企画展「池波正太郎展—人間通のまなざし」



---

## V 關係法令

---

# 高志の国文学館条例

平成23年 9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年 6月29日条例第38号

平成26年 3月26日条例第21号

平成28年 3月25日条例第22号

平成30年 3月26日条例第19号

平成31年 3月15日条例第 9号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

**第1条** この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に  
し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

**第2条** 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品  
その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の  
知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親  
しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民  
に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、  
学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄  
与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）  
を設置する。

(位置)

**第3条** 文学館は、富山市に置く。

(事業)

**第4条** 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムそ  
の他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」  
という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに関  
覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等  
を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等  
を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年  
報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的  
を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

**第5条** 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第  
244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であ  
って知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）  
に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

**第6条** 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業  
務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する  
業務
- (3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務
- (4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務  
(休館日)

**第7条** 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、  
知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の  
日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23  
年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）  
に当たる場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当  
たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれ  
らの日以外の日）
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日  
(平28条例22・一部改正)  
(開館時間)

**第8条** 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後6時  
までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間につ  
いては午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間  
については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると  
認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・平28条例22・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

**第9条** 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次  
の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒  
否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがある  
とき。
- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号にお  
いて「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するお  
それがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めると  
きは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

**第10条** 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守ら  
なければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしない  
こと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

**第11条** 常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

**第12条** 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

**第13条** 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

**第14条** 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

**第15条** 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

**第16条** 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

**第17条** 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

**第18条** 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

(3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

(4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

**第19条** 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

**第20条** 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(平28条例22・一部改正)

**第21条** 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

**第22条** この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

- 2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

(平24条例38・平26条例21・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

附 則 (平成26年条例第21号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成28年条例第22号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年条例第19号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年条例第9号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例9・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,420円	3,610円
	2分の1使用	7,170円	1,790円
研修室2		4,430円	880円
研修室3		3,960円	780円
研修室4		1,420円	290円
研修室5		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加、平31条例9・一部改正)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	330円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

# 高志の国文学館条例施行規則

平成24年 7月 5日

富山県規則第43号

改正 平成28年 3月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

(趣旨)

**第1条** この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入室時間)

**第2条** 高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前9時30分から午後5時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平28規則32・一部改正)

(特別観覧の承認申請)

**第3条** 条例第12条第1項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第4条第1号に規定する文学資料をいう。第6条及び第9条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の7日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第1号）を知事に提出するものとする。

(平28規則32・一部改正)

(専用使用の承認申請)

**第4条** 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第2号）を指定管理者に提出するものとする。

2 前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第1項において「専用使用日」という。）の3月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

(専用使用の変更)

**第5条** 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第8条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

2 専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるとき

は、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

(平28規則32・一部改正)

(観覧料の減免)

**第6条** 条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるところとする。

- (1) 条例別表第1の1の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合 観覧料の全額
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者1人につき1人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (4) 療育手帳制度について（昭和48年9月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (6) 70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合 常設展示観覧料の全額
- (7) 前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合 知事が必要と認める額

2 前項第1号又は第2号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第3号）を知事に提出することにより、同項第3号から第5号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第6号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足る書類の確認により、同項第7号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

(平28規則32・追加)

(駐車場を使用できる自動車)

**第7条** 文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ5メートル以下、幅2メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第6条繰下）

（原状回復及び点検）

**第8条** 専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第7条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

**第9条** 文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第8条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

**第10条** 高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第9条繰下）

（細則）

**第11条** この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

**附 則**

この規則は、平成24年7月6日から施行する。

**附 則**（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

様式第3号（第6条関係）

様式第3号（第6条関係）  
高志の国文学館施設使用許可申請書

申請書 様式 第 3 号

提出申請先 県 高志 国文学館（指定管理者）  
代表者氏名  
電話番号  
郵便番号  
住所

高志の国文学館施設使用許可申請書（様式）により定められた事項を記載し、提出してください。

施設名称	期 間	申請 日	申請 月	申請 年	申請 日
施設内容 1. 施設名称 2. 施設内容	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設名称	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設名称	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途

備考  
1. 申請書は、提出日より2週間以内、提出可能な期間とさせていただきます。  
2. 施設内容、種別、用途は、提出可能な期間とさせていただきます。

様式第1号（第3条関係）

様式第1号（第3条関係）  
高志の国文学館資料利用申請書

申請書 様式 第 1 号

提出申請先 県 高志 国文学館（指定管理者）  
代表者氏名  
電話番号  
郵便番号  
住所

高志の国文学館資料利用申請書（様式）により定められた事項を記載し、提出してください。

施設名称	期 間	申請 日	申請 月	申請 年	申請 日
施設内容	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設名称	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途

様式第2号（第4条関係）

様式第2号（第4条関係）  
高志の国文学館施設使用許可申請書

申請書 様式 第 2 号

提出申請先 県 高志 国文学館（指定管理者）  
代表者氏名  
電話番号  
郵便番号  
住所

高志の国文学館施設使用許可申請書（様式）により定められた事項を記載し、提出してください。

施設名称	期 間	申請 日	申請 月	申請 年	申請 日
施設内容	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設名称	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途
施設用途	種 別	1. 用途	2. 用途	3. 用途	4. 用途

# 高志の国文学館の職員の 勤務時間に関する規程

平成24年7月5日  
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程  
(趣旨)

**第1条** この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

**第2条** 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

**第3条** 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りには、館長が定める。

(休憩時間)

**第4条** 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

# 高志の国文学館の 使用料の額について

平成24年7月5日  
富山県告示第317号

改正 平成26年3月26日告示第148号

平成31年3月29日告示第169号

令和7年3月28日告示第123号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
スクリーン	1張	880円
プロジェクター（スクリーン付）	1式	2,980円
拡声装置（有線マイク1本付）	1式	2,540円
ダイナミックマイクロフォン	1本	730円
ワイヤレスマイクロフォン	1本	1,370円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄  
平成26年4月1日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄  
平成31年10月1日から施行する。

改正文（令和7年告示第123号）抄  
令和7年4月1日から施行する。

---

## 令和6年度 高志の国文学館 年報

令和7年10月3日発行

編集 高志の国文学館

富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館

---

※許可なく転載、複製することを禁じます。